

ティーチング・ステートメント

所属 保健医療学部理学療法学科

名前 鴨志田 麻実子

作成日 2024年2月26日

【責任】

保健医療学部・理学療法学科に所属し、専門・必修科目である「内部系理学療法評価学演習」「内部系理学療法学演習Ⅰ・Ⅱ」「日常生活活動学演習Ⅰ・Ⅱ」を主に担当している。「内部系」の一連の科目は、理学療法学科の中では3つの大きな専門分野の1つとなり、内科系疾患の理学療法において評価から治療までを担当する。「日常生活活動学」は、理学療法を実施する上でどのような分野でも必要であり、主に臨床実習に向けては確実に習得すべき内容となる。研究室では4~5名の学生の卒業研究指導、就職指導などを行っている。また、学科内では主に国家試験対策、会計備品等に関する業務を担当し、現在は4年生の担任をしている。

【理念】

学生には日々自主的に学習する事を心がけてもらいたい。しかし困難さに直面し、それを表面化できない学生を抽出するために、グループワークや個人課題の発表プレゼン等の提出物や質疑応答での反応から理解度を測る。

一方で、評価を適正に行い、提出された課題の成果物を学生にフィードバックすることで、学ぶ意欲の高い学生の意欲を削ぐ事のないようにする。

また、理学療法には「知識」と「技術」が必要であるが、技術は臨床に出てから必ず身につくものである。大学での学習期間は、技術には基礎知識が必ず必要である事、それが治療の根拠となる事を学んでもらいたい。

将来的には臨床の理学療法士として患者と接し治療をする仕事に就くことになるため、リハビリテーションが患者にも学生にも有意義な時間であってほしい。

【方針・方法】

「学生自身が考える機会を増やす」

- 学生は教員に教えてもらうことを求めるが、学生自身が調べ、考える時間をもつことが重要である。
- 授業では、グループワークを複数回実施し、課題に対してグループディスカッションを行い、PPTによるプレゼンテーションを課している。（授業ガイダンス時の資料）
- 適宜質問には答えるが、基本的には発表されるまで、発表内容や発表資料に介入せず、まずは調べてきた事をプレゼンしてもらう。
- 個人課題の場合は全員の発表を行う時間を確保できないため、数名の発表の質疑応答となる。全体へ課題を課した意義や、気づいてほしい点をフィードバックするようにしている。

「適正な評価を行う」

- グループワークやそのプレゼンテーションにおいて、学生間での意欲や理解度が異なるため、評価・評定をフィードバックする。
- 特に意欲の高い学生の意欲を削がないように、グループワークの評価では「良かった点」と「不足している点」を挙げるようにする。

「学生は学ぶ知識と実践（技術）のつながりを理解する」

- 理学療法を実践するには知識が必要であり、それを活かして実技・技術が実践できる。
- 知識と実践のつながりは常にリンクさせて教えつつ、理解を促す。
- 「なぜその治療をするのか」の根拠が、理学療法の基礎的知識を裏付けとすることが多いことから、実践の技術を教える前に、理学療法の基礎的な内容を再度確認するようにしている。
- 授業内では定期的に paper patient を提示し、学んだ内容が、実際の理学療法ではどのように活かされるのかをフィードバックしやすいようにしている。

「学生の自ら学びたい内容をサポートする」

- ゼミ生の卒業研究は、学生自身が実施したい内容をまずは実施できるか模索する。非現実的である場合や、研究としての意義が薄い場合もあるが、パラメータや対象を工夫して意義を見出してほしいと思っている。
- 私自身の研究に興味がある場合は、共同研究の意味合いを持って実施するようにしている。

「学習面が低調な学生を抽出する」

- 主に担任クラスだが、授業で接するだけではわからない学習面で苦労している学生には声掛けや、必要に応じて面談を設けている。
- 1対1で話す機会と集団で話す機会を両方設けるようにしており、友人と話す様子と個人的に教員と話す様子両方を把握するようにしている。
- 特に成績不振の場合は、必ず個人面談を設ける。指導というよりは、学習意欲の確認や学習環境以外の不安材料が無いか確認する。

【成果・評価】

- 授業アンケートでは概ね理解しやすいという結果を得ている
(アンケート結果)
- 学生と行った研究内容をまとめ論文投稿を過去2年続けている
(論文)

【目標】

- 学生の考える時間を多く確保すると同時に、教員側とのディスカッション時間を確保する
(1年以内)
- 授業時間内に学生の理解度を把握するため、挙手制の発表以外に簡単な課題をオンラインで回答する等で、各学生の理解度の共有を行う。

(1年以内)

- 学生の卒業研究の質を確保し、学会発表につなげる